



迫支援学校の進路指導について

進路指導というと、「進路先を決める指導」と思われるがちですが、進路指導は卒業後の進路先を考えることだけではありません。本校では、進路に関する学習において、学部ごとに発達段階に応じた進路指導を行っておりますが、その中で「人との関わりの中で、自分らしい役割を果たし、満足感や達成感を感じながら生活すること」を目指して、毎日の学習を通して、今、そして将来にわたって、自分らしい役割を果たしながら生き生きと生活できるようにする力を育むための指導を行っています。（「進路と福祉のしおり」のP1参照）

ちょっと難しい話になりますが、中学校・高等学校学習指導要領には「生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう（中略）キャリア教育の充実を図ること」と示されています。また、文部科学省から令和5年3月に発行された「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」には、これまでのキャリア教育の課題を踏まえ、『キャリア教育を通して育成すべき「基礎的・汎用的能力」』が示されました。

下図のように、「基礎的・汎用的能力」には4つの観点があり、それを踏まえ、各学部・学年部では、本校における進路指導のポイントをおさえながら日々の指導に当たっています。

自分らしい役割を果たすために
身に付けてほしい力
(基礎的・汎用的能力)



本校における
「卒業までに育てたい力」



- ①人間関係形成・社会形成能力
 - ・人とのかかわりの中で、相手の意見を聞いたり自分の考えを伝えたりして、周りの人と協力する力
- ②自己理解・自己管理能力
 - ・自分が「できること」を考えながら進んで取り組み、健康な心と体を作る力
- ③課題対応能力
 - ・仕事をする上での課題を発見し、解決するために、調べたり質問したりする力
- ④キャリアプランニング能力
 - ・「働くこと」の意義を理解し、自分の将来を考え、役割を果たそうとする力

	小 (下)	小 (上)	中	高
健康な心と体をつくる力	○	○		
身の回りの生活に必要な力	○			
人とかかわる力	○		○	
進んで取り組む力		○		
課題に向かう力			○	○
役割を果たそうとする力		○	○	
自分を知る力				○
なりたい自分を考える力				○

各学部では、いろいろな学習を通して、上記の①～④の力を身に付けられるように工夫をしています。裏面にて、具体的な学習の様子を紹介します。今号は、小学部の様子です。

〈小学部の進路指導〉～学校生活すべてが大切な進路指導です！



○小学部における進路指導とはどのようなもので、小学部段階ではどのような力を育てればよいのでしょうか？

小学部における「卒業までに身に付けさせたい力」として、下学年と上學年として次のように考えています。

卒業までに育てたい力	小・下学年	小・上學年
健康な心と体を作る力	○	○
身の回りの生活に必要な力	○	
人と関わる力	○	
進んで取り組む力		○
役割を果たそうとする力		○



これを見て分かるように、下学年から上學年にかけて、より主体的に活動に取り組み、社会生活につながる行動を身に付けることが大切になりますね。



○「進んで取り組む力」「役割を果たす力」を育てるために、小学部としてどのような活動事例がありますか？



先日のゆめ花祭では、小学部では「うらしましたろう」を上演しました。各学年がその配役において様々な趣向を凝らし、見通しをもって進んで練習に取り組み、たくさんのお客様を前にして、自分の役割を果たせたことは、大きな達成感につながりました。皆さまからいただいたお褒めの言葉掛けが励みになり、「やってよかった！」「またやってみたい！」という意欲を喚起させることができました。毎日の生活の中でも「褒める」ことはとても大切なことです。



○ゆめ花祭のステージ発表～本当に皆きらきら輝いていましたね。そのほかに、学級で日常的に取り組んでいることなどはありますか？



学級での係活動があります。それぞれ学級ごとに係が決められています。

4年生を例に上げると、クラスに児童が7名いるので7つの係を設け、一週間にごとに交代しています。黒板に分担表があり、「今週の係」を確認して進んで活動に取り組んでいます。また、欠席の児童がいる場合には、「○○さんがお休みなので、代わりにしてくれますか？」と伝えると、喜んで行ってくれます。ここで大切なのは「ありがとう」という言葉掛けだと思います。「ありがとう」という感謝の言葉で、「自分が誰かの役に立っている」という喜びを感じることができますからね。「働くことに喜びを感じることができる」これこそ将来の自立に向けて大きな力に成り得ると思います。

ぜひ、ご家庭でもお手伝いや仕事の場面を設けて、「ありがとう！」という言葉を掛けてあげてください。そのような日々の積み重ねこそが、大切な「生きる力」につながると思います。